

ウイルスと「共生」を

地球環境の変化やグローバル化に伴い、新しい感染症の脅威が増している。新たな感染症の可能性について、長崎大熱帯医学研究所の山本太郎教授に話を聞いた。

【聞き手・吉川雄策】

まで人が感染してこなかったウイルスに感染するようになってきている。本来は野生動物にとどまっていたウイルスが新たな宿主を求めた形だ。研究が進み新たなウイルスの検出が進んだこともあるが、発生や発見の頻度は確実に増えている。

新たなパンデミック（世界的大流行）が起きる可能性はありますか。

宿主動物から人へ

21世紀に入り、重症急性呼吸器症候群（SARS）や中東呼吸器症候群（MERS）など人類を脅かす野生動物由来の感染症が相次いでいます。

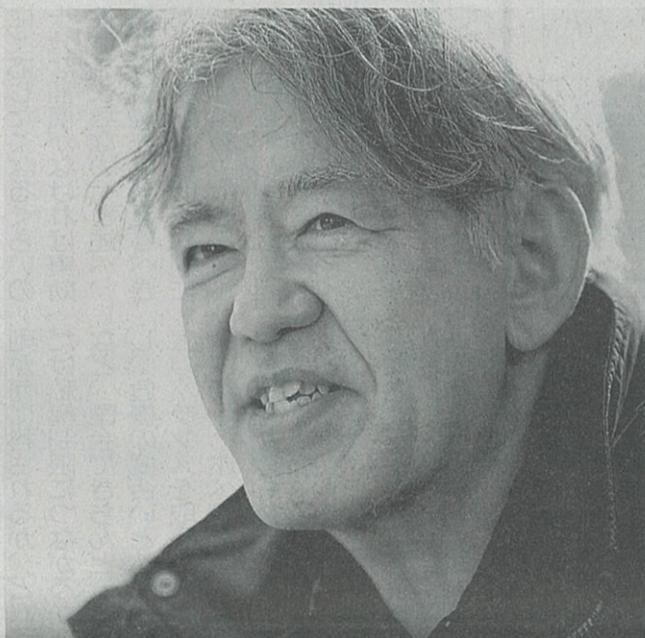
◆開発などで人が野生動物の生息域に踏み込むようになり、人と野生動物の距離が近づいたことで、これ

新たな感染症を防ぐにはどうすれば良いのでしょうか。

◆何よりもウイルスの「生存権」を侵さないことが重要だ。新たなウイルスが野生動物から人に感染するのは、開発や乱獲などで野生動物の生存が危うくなり、ウイルスが生き残りを図ろうと別の種に移るからだ。人と野生動物が共存できるようにすれば、ウイルスも別の種に移る必要がなくなる。そうした状況を早く作るべきだ。

◆警戒すべき新たな感染症の一つは、致死率の高い新型インフルエンザだ。インフルエンザは飛沫で感染が広がり、対応を誤ればあっという間にパンデミックになる。もし新たなインフルエンザが発生すれば、今回よりも高いレベルの対応が不可欠で、感染が広がる前の初期の段階で徹底的に抑えることが重要だ。致死率が新型コロナウイルスの10倍近くなる恐れもあり、命を落とす若者も増え混乱や影響の大きさは想像を超えるだろう。

新型コロナウイルスの「生存権」を侵さないことが重要だ。新たなウイルスが野生動物から人に感染するのは、開発や乱獲などで野生動物の生存が危うくなり、ウイルスが生き残りを図ろうと別の種に移るからだ。人と野生動物が共存できるようにすれば、ウイルスも別の種に移る必要がなくなる。そうした状況を早く作るべきだ。



津村豊和撮影

長崎大熱帯医学研究所教授

山本 太郎さん

踏み込んだりすれば、共存できず感染が拡大する。

かない。感染が広がるスピードを遅らせることで、医療や社会インフラの破綻を防ぎ、ウイルスの強毒化も防ぐようにするしかない。

現在、ワクチンが開発され、集団免疫を獲得していく道がかすかに見え始めた。しかし、ワクチン普及のスピードも考えらるる程度で集団免疫ができるまで時間がかかる。第3波」が起きている今は流行を抑制

新型コロナウイルスとの「共生」は可能でしょうか。

◆新型コロナウイルスとは、もう領域をすみ分けることはできない。そのため、現在の状況の中で「仲良く」するし

しつつ、重症化した人の命を守るために医療崩壊を絶対にさせないこと、また経済的・社会的に困窮した人の生活を守ることが求められる。

政府は目標明確に

日本の新型コロナウイルス対応の課題は何でしょうか。

◆欧米と比べれば人口に占める感染者の割合は低く抑えられており、結果的には成功しているといえる。ただ、成功の要因は現時点では不明で、今後解明する必要がある。手洗いといった生活習慣など社会的・文化的な要因▽体質的な特徴▽別のコロナウイルスに感染し獲得していた免疫が少し残っている——といった三つの可能性が考えられるが、現時点ではよく分からない。急に欧米のように感染率が高まる可能性がないとは言えず、注意が必要だ。

一方で、政治によるメッセージの出し方には反省すべき点があった。感染拡大のそれぞれの時点で国民に状況を説明し、科学的知見に基づいた目標を示すことが政治の役割だ。それが曖昧になったために、国民の間に対策疲れや慣れが広がった。次の新たな感染症に備えるためにも、政府は目指すべき方向を明確にし、国民に分かりやすいメッセージとして伝えるべきだ。